

以上で、私からの質問を終わります。

竹田陽一議員の質問

○浅野敏明議長 次に、順位3番、議席番号5番、竹田陽一議員。

(5番竹田陽一議員登壇)

○5番 竹田陽一議員 こんにちは。共創長井の竹田陽一です。このたびは、会派を代表し質問します。本定例会における一般質問は4件であります。よろしくお願いします。

それでは、まず初めに、行財政運営の持続可能性の確保についてお伺いします。

本市は、近年、給食共同調理場の新築、市役所庁舎の新築、公立置賜長井病院の建て替えなどが相次ぎ行われました。いずれも必要不可欠な施設で、老朽化が著しく、早急な対応が迫られていましたが、財政再建などの事情により、長年対応できなかった施設であります。

公共施設の整備とともに懸念されるのが財政状況であります。令和3年度の決算によると、財政規模に対する借入金の返済割合を示す実質公債費比率は10.9%、負債の大きさを示す将来負担比率は225%となっております。中期財政見通しによると、実質公債費比率は令和4年度から上昇に転じ、令和8年度には16.9%に達すると見込んでいます。将来負担比率は令和5年度に266.3%でピークを迎え、その後、徐々に減少すると見込んでいます。

公共施設整備の実施に当たっては、有利な補助制度を活用し、財政負担の軽減や平準化が図られています。加えて、実質公債費比率や将来負担比率を意識した基金が積み立てられ、健全な財政運営に鋭意努めていることが感じられます。

一方、地方の財政状況は、人口減少や社会保

障関連経費の増加などにより、依然として厳しい状況にあります。本市も同様であります。今後も中学校の改修が予定され、道路や上下水道施設の維持管理や更新などに要する費用の増加が見込まれることから、引き続き厳しさが予想されます。

本市の財政は、歳入においては市税と地方交付税で全体の4割を占めていますが、自然災害の発生による緊急的な支出を想定すると、これまでに積み重ねてきた成果を踏まえ、不断の見直しを計画的に行い、今後とも持続可能な健全財政を堅持することが重要と考えます。これらを踏まえ、以下質問します。

1つ目、行財政改革の歩みについてお伺いします。本市では、市民に痛みを強いる財政再建の時代がありました。平成11年度には借入金が約340億円でピークを迎えるという厳しい財政状況を改善するため、平成8年度以降、行財政改革に取り組んできましたが、これまでの行財政改革の歩みについて、政策推進監にお伺いします。

2つ目、ふるさと納税制度の充実による自主財源の確保についてお伺いします。本市の返礼品は、特産品であるビール、米沢牛、米などが人気を集めており、令和3年度には13億9,000万円の寄附金を頂いております。今後も寄附者のニーズを踏まえ、返礼品をさらに充実させ、自主財源の確保と地域経済の活性化が重要と考えます。地元特産物の販売促進またはPR、地元企業の活性化、交流人口の増加などを期待したいところです。返礼品として、例えば、長井ダムでのバンジージャンプ体験やSUP体験、フラワー長井線での運転席乗車体験などの体験型サービスの提供を検討してはいかがでしょうか。総務参事にお伺いします。

3つ目、産業団地の整備促進について伺います。新潟山形南部連絡道路において、来年度、梨郷道路が開通し、ようやく本市でも高速交通

網の恩恵が享受できるようになりました。梨郷道路の開通を契機とした産業団地の整備により市外企業の誘致や市内企業の流出の課題解決が期待されるところです。雇用の場ができ、税収が伸びるなど地域経済の活性化に資するものと期待しております。企業の投資意欲を逃すことのないよう、スピード感を持って進めるとともに、事業費の削減、事業の効率化を図っていただきたいと思っております。改めて、新産業団地整備への思いや今後の企業立地促進への環境整備について、市長の見解をお伺いします。

4つ目、新しい時代を担う職員の育成についてお伺いします。相次ぐ災害、新たな感染症の発生など、多様な課題に柔軟かつ果敢にチャレンジする職員の育成が必要不可欠となっています。加えて、職員一人一人にかかる業務の負担増などから、職員の心の健康づくりの推進が大事となっていると思っております。また、新規採用職員にはサポート職員を配置し、職場での基本的なルールや業務の進め方などについて、きめ細かく指導、助言、そして相談を行うことが大切と考えます。人材育成の取組は、自治体力を測るバロメーターとも言われております。今後、どのように人材育成に取り組んでいきますか。副市長にお伺いします。

5つ目、すみれ学園建物の木造化についてお伺いします。児童発達支援の提供を行うすみれ学園は、老朽化が著しいため、旧本庁舎跡地に来年度新築移転の予定となっております。新たな施設は、バリアフリー化を推進し、インクルーシブな教育環境を整備するとしています。国は、木材の利用拡大を進めており、全国的に小・中学校の建て替えでは木造校舎の採用が増えているようです。木の持つ温かみや心地よさが子供のストレス緩和や集中力の向上などに効果があるとの報告があります。木造建築は人や環境に優しいことから、すみれ学園は木造建築としてはどうですか。技監の見解をお伺いしま

す。

次に、中学校の部活動の地域移行についてお伺いします。ご案内のとおり、中学校の部活動の地域移行が進められているのは、少子化のため生徒数が減少し、部活動運営が厳しくなってきたことや、教員の働き方改革の一環として業務負担を軽減しようとする背景があります。当初、国は、地域移行の達成目標を令和7年末としていましたが、指導者や活動場所の確保が難しいとの指摘を受けて、地域の事情に応じて進めることを了としています。

学校外に移行というこれまでとは異なる形で行われる部活動には、多くの課題が指摘されています。民間のスポーツクラブが少ないこと、指導者に対する謝金の負担が発生することなどです。部活動の地域移行は、部活動の減少を改善するとともに、教員の業務負担の軽減につなげられる方法とは思いますが、課題の解決にはこれまで以上に地域と連携することが必要となっています。やりたい人がやりたい形で幅広い生徒が参加できる部活動の実現が求められています。これを踏まえ、以下質問します。

1つ目、地域移行に係る取組経過についてお伺いします。部活動は学校教育の一環として学校内で行われていますが、地域移行により学校外で実施されることから、その位置づけは変わると見られます。移行後の受皿が十分とは言えない本市ではありますが、現状や課題を関係者で共有することが重要です。地域型総合スポーツクラブやスポーツ少年団による意見交換会が設けられていますが、地域移行に係るこれまでの取組について、学校教育課長にお伺いします。

2つ目、保護者などの関係者、関係機関への周知についてお伺いします。地域移行を円滑に進めるためには、国や県の動向や市の取組状況について、保護者、児童生徒に周知する必要があります。特に、大人の話合いではなく、子供たちの意向を十分反映させるための

アンケート調査も大事かと思いますが、教育長の見解をお伺いします。

3つ目、部活動の地域移行のロードマップについてお伺いします。子供たちが自分の希望するスポーツができる環境を整えるためには、地域移行を具体的に検討する組織を設置するとともに、推進計画を策定して進めることが重要と考えます。スポーツ団体への支援体制、困窮家庭を対象としたスポーツ費用の補助など、国による支援が必要とされる課題もありますが、地域移行に向けた今後の取組について、教育長の見解をお伺いします。

4つ目、部活動の地域移行による地域づくりへの展開についてお伺いします。地域クラブでは、子供から大人まで楽しめ、子供たちの居場所にもつながることが期待できます。様々な人との関わりから、多様な価値観を認められる人間形成、世代を超えた関わりからお互いの成長などが期待できると思います。部活動の地域移行は、学校だけではなく、地域づくり問題として捉える必要があると考えます。安定した組織づくりに向けて先頭に立って進めていただきたいと思いますが、教育長の見解をお伺いします。

次に、地域の力による除雪サービスについてお伺いします。近年、大雪のために高速道路の車が長時間立ち往生したり、除雪中の死亡事故が頻発しています。昨年末、本市において一晩に79センチの記録的な降雪がありました。気候変動によって雪の降り方が変化しているように感じます。

自然災害が頻発する中において、高齢者は慣れ親しんだ環境で生活したいという願望がある一方、不安を覚えるものがあります。それは、冬季の除雪、雪下ろしであります。雪がたくさん降ったら、この年齢での除雪や雪下ろしは大変だとの不安の声をよく聞くようになりました。本市の高齢者を見ると、独り暮らし高齢者が1,260世帯、高齢者夫婦世帯は1,211世帯で、高

齢化率は昨年度から1.2ポイント上がって37%と、高齢化が進んでいます。

本市では、独り暮らしや高齢者のみの世帯で雪下ろしが困難な世帯や、介護保険利用世帯に対して除雪サービス事業を行っています。一方、このような除雪サービスの対象とならない高齢者は、自らが除雪業者に依頼することになりますが、人手不足から、容易ではない実態にあり、人手不足の状況は今後一層進行するものと予想されます。

このようなことから、自助の次の段階は、高齢者にとって顔の見える地域コミュニティによる雪処理が期待されます。除雪の担い手を確保し、高齢者世帯等の負担を軽減し、安全安心な地域をつくることが課題となっています。これらを踏まえ、以下質問します。

1つ目、社会福祉協議会の除雪サービスについてお伺いします。市の除雪サービスに該当しない場合は、社会福祉協議会の除雪ボランティアを活用しているようですが、その実態についてお伺いします。あわせて、市と社会福祉協議会との連携の在り方について、厚生参事にお伺いします。

2つ目、除雪ボランティア活動の普及拡大についてお伺いします。現在、豊田地区と致芳地区において、間口除雪ボランティアが実施されています。また、飯豊町では、NPO法人まちづくりいいでが全域を対象に行っていると伺います。除雪の人手不足は、周辺地域のみでなく、市街地においても同じ状況と推察します。未実施地域においても同様の仕組みの速やかな整備が必要と考えますが、今後、どのように支援していきますか。総務参事にお伺いします。

3つ目、仮称地域お助けサービス制度の新設についてお伺いします。年々高齢化が進み、除雪に限らず、生活支援の需要が増えているように感じています。買物や通院の付添い、掃除や料理などの生活支援、そして、ごみ出しなどの

ちょっとした支援があれば、今の暮らしを続けていくことができる人が多くいると思います。団塊の世代が後期高齢者となる前に、今から徐々にでも生活支援の仕組みをつくっておく必要があると思います。独り暮らしの高齢者などを対象に、暮らしの小さな困り事を地域住民同士で見守り、支え合う仕組みとして、仮称地域お助けサービス制度をつくり、住み慣れた地域での暮らしを支えていくことが必要と考えますが、厚生参事の見解をお伺いします。

次に、地域防災力の強化についてお伺いします。昨年末、鶴岡市で融雪での山崩れが起き、2人が犠牲になりました。土砂崩れは、通常、大雨が引き金となって起きますが、いつどこで起きるかは予想できません。傾斜が急な山が多く、大雨や地震などが多い日本では、土砂災害が発生しやすい国土環境にあります。土砂災害警戒地域に指定されている場合は、常に災害の危険性があるという認識を持たなければなりません。土砂災害による被害を防止するため、市民一人一人が土砂災害に対して備えておくことが重要ですが、これと併せて砂防堰堤などの整備が課題であります。これらを踏まえ、以下質問します。

1つ目、土砂災害防止対策工事の見通しについてお伺いします。本市には、土砂災害警戒区域が69か所、うち、特別警戒区域が54か所あります。県による土砂災害防止対策工事は、危険箇所が多いことから、戸数の多い順などの優先順位をつけて進めていると伺っています。本市にも土砂災害のおそれがある箇所に24時間滞在型の要配慮者利用施設が存在しておりますので、優先的に効果的なハード対策を実施する必要があります。土砂災害防止対策工事の見通しについて、建設参事にお伺いします。

2つ目、危険区域のパトロール強化についてお伺いします。危険箇所については、これまでは防災関係機関により、土砂災害が発生しやす

い6月から9月にかけてパトロールが実施されています。加えて、鶴岡の事例から、融雪期のパトロールも必要と思います。住民に対して、巡視や点検方法を教示するとともに、定期的に情報交換を行い、異変の把握に努める必要があると思いますが、建設参事にお伺いします。

3つ目、避難所のバリアフリー化についてお伺いします。避難所においては、誰もが利用しやすいよう、あらかじめ生活環境をデザインしておくユニバーサルデザインの考えが必要と思います。高齢者、障がい者等の避難においては、建物の課題として段差やトイレがあります。出入口や避難所内に段差があると、車椅子利用者や高齢者、ベビーカー利用者が出入りにくくなります。高齢者や視覚に障がいのある人などは、少しの段差でもつまずきやすくなります。また、トイレは車椅子利用者やオストメイトに対応した設備が不十分では利用できません。避難訓練の際に、段差など避難環境を確認することにより、速やかに改善することが求められます。本市では、小・中学校のトイレのバリアフリー化を進めていますが、今後の避難所のバリアフリー化の整備方針について、市長の見解をお伺いします。

以上で壇上からの質問を終わります。ありがとうございました。

○浅野敏明議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 共創長井の代表の竹田陽一議員のご質問にお答えいたします。

議員からは、大きく4点、ご提言、ご質問などいただいておりますが、私からは2点ということで順次お答え申し上げます。

まず最初に、行財政運営の持続可能性の確保についてということで、(3)の産業団地の整備促進についてということで、私への質問、ご提言をいただきました。

新産業団地の整備への思い、企業立地促進への環境整備についてご質問いただきましたので、

改めて事業推進の背景についてお話しさせていただきたいと思いますが、ご承知のとおり、地域高規格道路である新潟山形南部連絡道路につきましても、東日本大震災での教訓もあり、東西の交通網については重要性が高まっており、現在、国により鋭意事業が推進されているところです。そして、ようやく令和5年度において、南陽市梨郷を起点とする梨郷道路部分が長井市今泉の現道のところに接しまして、そこで開通というような運びになると発表されております。長井市も高速道路網ネットワークの恩恵を受けることができるようになるんですが、ただ、残念なことに、長井市の部分は200メートルから300メートルぐらいでしょうか。しかも、あともう少し東のほう、50メートル、100メートルは川西町という、本当にぎりぎりかすったと。長井市を最初は8年前ぐらいにルート、8年、いや、もうちょっと前ですね、12年前ぐらいにルートを示されたんですが、そのときは長井市を通らないルートでした。私は、梨郷地区と川西町の西大塚については、地盤が非常に悪いので、ぜひ長井市も通ってほしいということと併せて、伊佐沢経由で長井に入ってもらえないかというお話をしたことがあります。残念ながら、それは実らなかったんですが、おかげさまで、辛うじて長井市部分もかすって、今泉のところに現道がつながると、これが令和5年度中ということでございます。

それで、従来から、私も東海地方、あるいは関東、首都圏での山形県での企業立地の促進の相談会みたいな形で知事が講演されて、東京事務所、あるいは名古屋事務所が声をかけた企業群にお越しいただいて、実際にいろいろ山形県へのPRとかどういふところに立地できるとかという、そういった相談会も含めたものに参加したんですが、長井市はご承知のとおり、団地として整備しておりませんので、やはり企業とよほど交流をしないと、長井市の新たな立地と

いうのは県を通してじゃないともう話にならなかったという苦い思いがありまして、いつかやはり、長井は製造業、ものづくりのまちでありますので、自前の新産業団地を整備する必要がありますと思っておりましたが、今回、高速ネットワークのいわゆるインターから500メートルないし1キロの範囲内は特例で農振除外ができるということで、今回、計画を立てたところですが、実は、もう一つ目的があるんですね。

それが何かというと、山形県13市の中で、高速道路が通ってないのが、長井市だけです。まともに通ったって言えないですから、今回は。ところが、それを、国はもとより県もそういうことに関して特に動きはないわけですね。したがって、私どもから運動していかなきゃいけないといったときに、新潟山形南部連絡道路と合わせて、新潟と仙台の、山形間に経由してですね、その物流が非常に重要だという国の認識などもあって、一方で、私どもは、国道287号線を南バイパス泉地区で途切れてますが、そこまでが終点なんです、そこから西廻り幹線道路ということで、西根地区、平野地区、そして致芳地区も入りまして、市民の皆様、地区主体で期成同盟会つくったんですね。それを私ども長井市が引き継いで、白鷹町と、いわゆる西廻り幹線道路、南バイパスから平野に入って、置賜生涯学習プラザの近く、それから消防署の近く、そして西に入ってあかみや産業団地までということ、私どもは考えているんですが、白鷹町は、荒砥橋までということ、287の延長で考えていたんですね。これを高規格化を進めようと。ところが、県のほうは広野バイパス、森バイパス、もう既に287のバイパスはできておりますので、それは非常に難しいという結論でございましたし、東北地方自動車道路の米沢北から米沢北バイパス、287ですね、あと、米沢川西バイパス。川西バイパスの3つはつながってるものですが、別建ての予算で今進められてるわけですが、

長井南バイパスはもうできてますので、そこから先はネットワークにはならないので、残念ながら県のお話ですと、西置賜の道路予算というのは本当限られた予算で、年間数億円と、3億円から5億円ぐらいって聞いてますけども、それでいったら、白鷹町の荒砥橋までですと、南バイパスの終点から、ざっと150億円から200億円、最低でもかかると。そうすると、仮に1年間5億円だとすると、それで30年、しかもそれ全て使えるわけじゃないと。ということで、まず難しいと。

私どもは、長井西バイパスということで、白鷹町まで行かないとしても、この287号線泉地区、あるいはタスの前の館町とか、非常に混雑するので、ぜひバイパスをとということで、それについては県も検討いただいたんですが、なかなか財源的に厳しいということで駄目だったんですが、それをもしかしたら、梨郷道路から今度は先に飯豊町、小国町に進めるために今泉道路あって、そこに産業団地ができることによって進めやすくなるんですね、国にすれば。そして、私どもからすれば、今度はそこを起点に287号線じゃなくて348号線って今泉ダブってるんですね。287号線が348合わせて荒砥まではダブってますね。そこからもう1本、いわゆる今度、高規格道路の斜め線ということで348号線を県がするって決めていただくと国のほうも動くという話もございましたので、ぜひ斜め線を、これを機に長井市に地域高速道路、高規格道路をつなげることによって、今度山形市への距離が長井市からだと約30分で行けると、通勤圏内になるということから、ぜひ、特に西根とか致芳地区については非常に人口減少で苦しんでるということなどもあって、今度山形市に近くなるということから、さらにそういった展望が開けるといっても含めての、実は計画でございますので、中身については、これはもういろんなところでお話ししているのご了承いただ

けるかと思いますが、竹田議員、たくさんご質問あるので、このところはそういったことも含めて2つの目的で企業立地もちろん、そして市内の、あるいは周りの市町村からの拡張したいんだけど新しいラインをつくりたいんだけども、土地がないという企業のために、立地はいいので、そこを生かしていきたいと思っておりますので、ぜひいろいろ今後ともご支援、ご指導賜りますようお願いいたします。

私のほうの2点目でございますが、4番目の地域防災力の強化ということで、私へは(3)の避難所のバリアフリー化についてということでご提言いただきました。

これはまさに竹田議員おっしゃるとおりなんです。やはり課題は、既存の、地区の大きな避難所というのは大体小学校、中学校なんですけども、おかげさまで、エアコンがついてるので、去年は非常に喜ばれました。逆にエアコンの設備がない学習プラザのほうは、何でエアコンがないんだと、早くつけろと言われてたんですが、小学校、中学校についてはやはり児童生徒の建物ですから、バリアフリー化までちょっと今までは全くそういう意識がなかったんです。せいぜい椅子ぐらいだったんですが、いろんな形で今後は機能的な、また誰でもが集まれる、いざというときに避難もできる、そういった施設であるべきということから、次の10年計画が令和7年からになります。ということで、そのときに小学校と、中学校はどうするか、ちょっとまだ決めてないんですが、これは教育委員会とも相談して、もしかしたら中学校、統合するのか、あるいはその辺のところを今後検討していくと。

ただし、小学校は、昭和50年代、40年代に建てた建物が大部分ですので、さすがに大規模改修と耐震化はしましたけれども、もしかしたら改築、あるいはまた大規模改修する必要性が生じると。そのときに、私どもとしては、コミュ

ニティセンターを小学校と一緒に合築みたいな形で、かなりコミュニティセンターも老朽化しておりますので、伊佐沢が一番新しいですが、ほかは大分古いので、そういったものを一緒にしたらいいんじゃないか。あとは、郵便局も一緒にできないかとか、いろんな検討をしております。そのときに、誰もが利用できるバリアフリー化ということで目指していきたいと。それまでは、できるだけ車椅子の方もご利用できるような、あるいはトイレも多機能型のトイレも造るなど、場所の問題もあるんですけども、少しずつそういったことも進めながら、大々的にはその次の10年計画の中でやるべきものと考えておりますので、よろしく願いいたします。

なお、各コミュニティセンターのほうには、地区防災機能が必要だと思っておりますので、これは緊急防災・減災事業債が使えるうちにやりたいと思ってるんですが、そんなことも併せて考えておりますので、よろしく願いいたします。

○浅野敏明議長 齋藤環樹副市長。

○齋藤環樹副市長 私からは、問1の(4)新しい時代を担う職員の育成についてお答えを申し上げます。

議員ご指摘のとおり、社会情勢の変化、具体的にはデジタル社会の到来や技術革新、大規模災害や感染症などのリスクの増大、少子高齢化の進展や生産年齢人口の減少、ライフプランや価値観の多様化などに伴いまして、行政が対応すべき課題は複雑化、多様化しております。こうした状況に対応していくためには、デジタル技術の活用による生産性やサービスの質的向上、組織や地域の枠を超えた連携による対応力の強化、人的資源のマネジメントと専門性の向上による組織力の強化、あるいは行政事務のデジタル化による業務量の軽減などによる、職員が意欲、能力を発揮できる働き方の実現などが重要だと考えております。

求められる長井市の職員像といたしましては、市行政への使命感や高い貢献、挑戦意欲を持ち、特にデジタル技術で代替できない業務について高度な専門性を有し、現場での対応力や人や組織をつなぐ能力を備え、様々な課題に的確に対応できる職員であると考えております。

市職員の年齢構成の急激な若返りによりまして、特に若年層に対する公務員としての専門性や状況に適切に対応できる柔軟性、コミュニケーション能力等の習得、向上のための継続的な人材育成が急務となっております。

人材育成の代表的な手法といたしましては、一つはOJT、現場で実際の仕事をしながらスキルを身につける、即戦力、応用力、チームワークが習得しやすいと、一方で、指導者のスキルが問われると言われていた手法と、あとはOff-JT、研修、それから自己啓発などがございます。

市職員の研修につきましては、新規採用研修から始まる、外部あるいは内部の階層別研修のほか、特定の課題や分野について専門知識の習得のための研修、例えば千葉にある市町村アカデミー等に積極的に参加させておりますが、このほかに長井市が特に力を入れているというか、特徴点なのは、こうしたことに加え、入庁後一定程度の勤務経験をした若手職員に専門的な知識と経験を取得してもらうため、国、県や他機関、具体的には内閣府、内閣官房、総務省、文部科学省、地域活性化センター、東北地方整備局、東北経済産業局、東北財務局、山形県などの派遣研修を継続して行っております。

国等につきましては、平成25年度以降、来年度派遣予定も含めまして28人、山形県につきましては、平成13年度以降で13人と、合わせますと41人の派遣を行う予定となっております。こうした派遣研修につきましては、仕事の進め方や情報収集、調整方法の習得、人的ネットワーク形成などの点で、そして実際の個別事業の推

進においても大変有益と考えておりました、研修を終えて帰ってきた職員、押しなべて見違えるように成長した姿を目の当たりにしているところでは。このほかにも、市の課題や主要な施策に対する職員全体の意思統一を図るため、市長をはじめ三役と、職員の階層別の意見交換会なども実施しているところでは。

それから、議員が触れられた新規採用職員に対するサポート職員の配置ですが、いわゆるOJTの一種ということで、上司によるOJTやコミュニケーションを補完するいわゆる斜めの関係として先輩職員が後輩職員へ助言や支援を行うことで、職場環境への円滑な適用やキャリア形成を図る仕組みでございますが、これは極めて有効だと考えております。

新しい人事制度によりまして、令和6年度から各職場に配置される役職停止職員を含めた経験豊富な定年延長職員に新規採用職員を含めた若手職員の人材育成のために、まさにこうした役割も担ってほしいと考えております。

最後に、令和6年度に長井市で開催される山形県総合防災訓練の準備を行うとともに、危機管理防災体制の一層の充実を図るため、来年度から危機管理を担当する管理職を配置する予定でございますが、若手職員に限らず、管理職などの役付職員であっても、庁内の情報共有や連携、調整の点などでいかなものかと思われるケースもあることなど、組織運営上の課題があるということで、今後の組織の将来を見据え、この職員に総務課と連携しながら人材育成を担当してもらい、きめ細やかなOJT、あるいは研修等を通じた実効性のある人材育成を行っていきたいと考えているところでございます。

○浅野敏明議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 竹田議員からは、スポーツと文化の振興について、部活動と地域のその在り方について、教育委員会については4点ご質問をいただきました。これからの学校教育の根幹

が変わるのでないかということも含め、大変核心をついたご質問だと受け止めさせていただきました。

今回の国から発出されたガイドラインの狙い、それから課題等について述べながら、私への質問についてお答えいたしたいと思っております。

まず、全体を貫くものとして確認したいことについてお話をさせていただきます。まず、ガイドラインのキーワードですけれども、これは地域の子供たちは学校を含めた地域で育てる。そして、そのために地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備する、このことにあります。

竹田議員からご指摘のとおり、学校教育の中での部活動の意義や役割、在り方について、大きな発想の転換が迫られております。12月に国からのガイドラインが示されましたが、そこにはスポーツや文化芸術活動の振興を地域ぐるみで取り組むこと、教員が学校の本務である授業等に傾注できるよう働き方改革をすること、学校部活動や地域クラブの在り方について述べられておりますが、学校、それからスポ少、クラブ等それぞれの立場からたくさん課題が出され、本市だけでなく、どの市町でも非常に今混沌としている状況であります。このことから、令和5年度の開始から3年後の令和7年度を目途にした改革集中期間、これが12月の文書では、改革推進期間として改められ、令和7年度の達成目標としたもの、この旗印も降ろすことになりました。これらを踏まえたときに、12月に示されたガイドライン等についてもこれから様々紆余曲折があると捉えているところでは。

また、現在の指針を受けて、西置賜地区の中学校体育連盟では、令和5年度を周知期間として、令和6年度からは任意による入部制にすることを示しております。これは恐らく文化系も同じでないかなと思っております。また、さらに高みを目指す新たなクラブチームなども立ち上がっております。今後、様々な動きがあり、

その方向性や対応も変わってくるのではないかなと思わざるを得ません。

さて、私へのご質問ですが、保護者や児童生徒に周知していくこと、それから学校職員から意見を吸い上げること、これは非常に重要でありますし、現状やこれからの見通し、部活動についての考え方、そういった根本的な部分を含めて見通しについて丁寧に説明する必要があると考えております。具体的には、また保護者からのアンケート等必要でないかと、生徒からのアンケートも必要でないかということですが、これについても実施する予定であります。

なお、アンケートで集まった声を基にしながら検討委員会においても検討を加えていく必要があると思います。事務方のほうでは、令和4年度を目途に検討委員会を立ち上げるということですが、これは次のご質問にもちょっと絡むところではありますが、私、ちょっと難しいなと思っております。というのは、今回のものをずっと読めば読むほど様々な法令に係ってきます。例えば、スポーツ基本法、それから芸術文化基本法、これの整合性はどうかということ、それから様々な部活動がありますので、これは行政関係からいうと教育委員会、それから健康スポーツ課、観光文化交流課、これらとの連携も必要です。さらに、民間のほうを考えますと、スポーツ協会、それから文化芸術関係の団体、それから吹奏楽連盟、この連携どうするかというようなことを考えると、極めて多岐にわたってどういう組織をつくったらいいかというのも大きな課題であると思います。

今後、様々な混乱等も予想されますので、まずはとにかく子供が困らないようにすると、これが私たちの一番の仕事だと思います。具体的に実現可能なものから進めていきたいと思っております。

まず、原則として確認したいことは、月曜日から金曜日までは部活動、土曜日と日曜日は地

域活動に参加し、自分の興味関心を伸ばす場、ここははっきりとすみ分けをする必要があるかなと思います。

なお、本市では、土日の活動が可能なクラブ、今、スポーツでは野球、陸上、ソフトボール、バスケットボール、これらが可能でないかということで今話を進めておりますので、これらについて本当に具体的に困らないように進めるといことをしたいと思っております。

最後、部活動の地域移行における地域づくりの展開についてであります。繰り返しになりますが、今回のガイドラインの根幹にあるのは、地域の子供たちを学校を含めた地域で育てる、このことにあります。そのために、地域の持続可能で多様な環境を整備することは非常に大事です。これは本教育委員会が令和5年度の重点の一つに据える学校をコミュニティの拠点として取り組むスクール・コミュニティの考え方、これに合致しておりますし、市でコミュニティセンター、学校、学童クラブ等を核にした小さな拠点づくり、この目標と一にするものだと捉えております。

様々なハードルが、極めてたくさん予想はされますが、ぜひ竹田議員からご提案の地域づくりに資するように進めていきたいと私は考えております。

○浅野敏明議長 竹田利弘政策推進監。

政策推進監に申し上げます。残り時間を考慮して答弁をお願いします。

○竹田利弘政策推進監 私からは1番目の項目の(1)行財政改革の歩みについてお答えさせていただきます。

本市におきましては、昭和50年代から平成の前半にかけては、積極的な公共投資を行った結果、平成10年頃から毎年の公債費が、償還額でございますけれども、17億円から19億円にも達し、市財政の大きな負担となりました。また、平成に入って間もなく、抑制しておりました職

員採用を積極的に行ったことに加え、いわゆる人勤に基づく公務員給与が毎年改正され続けたことなどにより、人件費の決算額に占める割合が20%を大きく超え、公債費と人件費の決算に占める割合は最大で約35%、47億円ほどとなってしまいました。

経常収支比率、公債費負担比率などの財政指標も大幅に悪化し、赤字決算も覚悟しなければいけないような状況になったため、平成13年度から平成17年度まで、長井市行財政改革推進実施計画に基づく職員給の削減、市債発行抑制と繰上償還、建設事業の休止、補助金の削減、経常経費の一律削減など、あらゆる財政再建策に取り組みました。さらに、引き続き、平成18年度から平成22年度までは、財政の健全化に向けた取組をすべく長井市自立計画集中改革プランを策定し、市民の皆様にも多大なるご負担とご迷惑、そして我慢をおかけする時期が過ぎました。ようやく平成20年度決算では、最大の固定費である人件費が19億9,000万円、公債費も9億8,000万円に減少し、両者の決算に占める割合も合計で21.3%、29億7,000万円まで改善することができました。類似団体、この当時ですけれども、その割合が平均で26%ほどで、長井市では21%と、財政健全度は相当改善しているという数字まで達しました。

また、平成19年度以降もいわゆる地方財政の健全化に関する法律で義務づけされたいわゆる指標ですけれども、早期健全化比率とか財政再生基準、各種の比率も大きく下回っておりまして、本市の財政は一定の健全度を保っております。

また、副市長からございましたように、現在、国とか県のほうにも職員を多く派遣して、とにかく事業に取り組むときは直接的な補助制度を最大に活用して、例えば、裏につける起債についても、まず交付税措置のないものは取り組まないというようなある程度の指針を示しながら、財政状況が悪化しないように取組を進めており

ます。

○浅野敏明議長 青木邦博技監。

○青木邦博技監 私からは、すみれ学園の木造化について簡潔にお答えさせていただきます。

文部科学省から刊行された「あたたかみとうるおいのある木の学校 早わかり木の学校」に竹田議員がおっしゃるとおり、その効果が事例として示されております。

第1章、木の活用の効果と意義、第2節、教育的効果の向上では、心理・情緒面への効果として、落ち着いた雰囲気です学習するようになったという報告が多数見られます。健康・安全面への効果では、1つに調温性・調湿性、2つ目に結露防止が指摘されまして、特に3つ目のフローリングの弾力性は、衝撃を吸収するため、事故やけがが発生比率が低くなることが紹介されております。また、第3節、地域の風土、文化との調和では、新たに地域住民と学校がコミュニティを形成する絶好の機会と記されております。

発達障がい、肢体障がい、また知的障がい者支援施設であるすみれ学園では、特に心理面、情緒面の安定や安全安心が一層求められることから、木造建築は目的にかなったものであると考えております。

加えて、この立地が旧長井小学校第一校舎と同じエリアにあることで、ぬくもりのある木造建築物が心を結ぶ大切な構成要素になり、さらには長井小学校児童や保護者との交流も期待され、長井市が目指すインクルーシブ社会の形成につながると期待しております。

このたび、補正予算をお認めいただきましたので、早々に木造を基本として実施設計を進めていきたいと考えております。

○浅野敏明議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 私のほうには、1番の(2)ふるさと納税制度の充実について、議員のほうからは、体験型サービスの提案をいただ

いたところでございます。

議員提案の体験型サービスをお礼の品として
いる自治体につきましては数多くありまして、
その中でも近隣では飯豊町のほうで、白川湖の
カヌー・SUP体験という体験型サービスもお
礼の品としてPRされているようでございます。

ご提案いただきましたSUP体験などにつ
きましては、既にやまがたアルカディア観光局で
商品化しておりますので、お礼の品としても検
討もしやすいと考えております。そのほか、フ
ラワー長井線の1日車掌体験であったり、引込
線を使って鉄道車両運転体験、ちょっとハード
ル高そうですけども、そういったものを他の自
治体と差別化を図ることもポイントの一つとし
て考えておりますので、やまがたアルカディア
観光局、山形鉄道と連携しながら検討してい
たいと思います。

あと2つ目の質問で、3番の(2)除雪ボ
ランティアの普及拡大でございます。議員からあ
りましたとおり、豊田地区では平成30年から、
致芳は平成元年から、間口除雪ボランティアを
実施しております。議員からありましたとおり、
高齢者の要生活支援者宅の除雪支援は未実施と
なっている他の4地区でも必要とされている支
援でありますので、豊田と致芳の先進事例を参
考に横展開をしていきたいと考えております。

なお、新たな地域としては、令和5年度の事
業で伊佐沢地区を予定しておりますので、市と
伊佐沢コミュニティセンターのほうで連携しな
がら、実施体制のほうを検討進めてまいりたい
と思いますし、他の地区についても順次、関係
機関と調整しながら進めてまいります。

○浅野敏明議長 横澤聡一学校教育課長。

○横澤聡一学校教育課長 私のほうからは、竹田
議員の質問、地域移行に係る取組、経過につ
いてお答えいたします。

令和4年8月30日にスポーツを中心にした部
活動地域移行について考える会を実施しており

ます。その際には、参加いただいた学校関係者、
各スポーツ少年団、スポーツクラブ、スポーツ
協会の方々に、国や県が示す部活動の今後の在
り方について、スポーツを中心に情報提供を行
いました。また、令和5年1月には、スポーツ
少年団本部主催のスポ少活動情報交換会を通し
て、部活動地域移行について、野球や陸上の実
際の活動の事例を紹介しながら、今後の地域と
部活動の連携の可能性について情報共有を行
いました。

話合いの中では、それぞれの立場から現状や
これまでの取組、そして連携についてたくさん
の意見が出されたところですが、大局的な観点
での話合いは十分と言えなかったような気がし
ます。それぞれの立場に立った課題を受け止め、
具体的に取り組んでいくとともに、国から示さ
れた地域の子供たちは学校を含めた地域で育て
る、そのために、地域の持続可能で多様な環境
を一体的に整備することを見据えた話合いがで
きるよう、今後もコーディネートしていきたい
と考えています。

○浅野敏明議長 梅津義徳厚生参事。

○梅津義徳厚生参事 私からは、問3の地域の力
による除雪サービスについてお答えいたします。
簡潔に述べさせていただきます。

(1)の社会福祉協議会の除雪サービスにつ
きましては、市の除雪サービスの対象とならな
い世帯に対し、除雪ボランティア活動を行って
おります。民生委員さんが除雪サービスが必要
と思われる世帯に対し、除雪ボランティアとの
マッチングを行い、支援の優先度の高い世帯か
ら実施しております。令和3年度は、18世帯、
延べ151人のボランティアが活動をされてお
ります。そのほか、コミュニティ協議会の間口除
雪などにもボランティアで参加していただい
るところです。

続いて、(3)地域お助けサービス制度の新
設についてですけれども、長井市では、生活支

援体制整備事業の実施により、高齢者を含む地域の住民が自ら支え合い、助け合い、担い手として活躍いただくことで、地域のちょっとした困り事を解決し、自身の介護予防にもつながることを目指しております。

平成28年度からいろいろ担い手を募集させていただきましたが、コロナ禍により思うように活動ができませんでした。令和5年度、来年度に改めて講演会などを開催し、広く周知し、地域課題の解決に向けて再度取組を行っていきます。また、コミュニティ協議会や社会福祉協議会などと連携して、各コミュニティセンターなどを拠点とした生活支援体制整備に取り組み、誰もが安心して暮らせる支え合いの地域づくりを目指してまいりたいと考えてるところです。

○浅野敏明議長 小林克人建設参事。

○小林克人建設参事 私からは、問4、地域防災力の強化につきまして2点お答えいたします。

初めに、(1)土砂災害防止対策工事の見通しについてでございます。土砂災害警戒区域につきましては、山形県に河川砂防事業等の早期着工及び事業推進の重要要望を行ってございまして、土砂災害防止対策工事を行っていただいているところでございます。

急傾斜地となっている箇所でございますが、議員ご指摘の慈光園が重要な要配慮施設、地域防災計画の避難所に位置づけられていることから、周辺の対策工事につきまして、早期の事業着手を要望してございます。

また、伊佐沢の芦沢地区におきましては、令和2年度から令和11年度の計画で現在、工事が行われているところでございます。

土石流の危険箇所になっている区域におきましては、西根地区を中心に砂防事業と治山事業の両面から堰堤の整備が行われてございまして、砂防堰堤の整備につきましては、マキノ沢、毛無沢で令和3年度までに完了いたし、令和4年度は出来ヶ沢で整備が進んでいるところでござ

います。

治山事業といたしましては、8月豪雨で被害のありました鴨石沢や小三郎沢におきまして、令和9年度までに堰堤整備が行われる予定となっております。

今後も効果的な整備に向けまして、引き続き山形県への要望を継続してまいります。

続きまして、(2)危険区域のパトロール強化についてでございます。土砂災害警戒区域等の危険区域のパトロールにつきましては、山形県におきましては、砂防施設のパトロール、点検を行ってございまして、急斜地におきましては、近隣住民に委託し、巡視を行っていただいているところでございます。

市では、建設課で市道、農林課では林道を中心にパトロールを行ってございまして、特に融雪期には毎年倒木や道路の欠損箇所など多数発見しておりまして、早期の復旧を図っているところでございます。

管理箇所が多く、パトロールによる効果的な早期発見につなげるため、異変があれば、地区長等の情報提供をいただきまして、その都度確認、対応をしている状況でございます。

今後も県や農林課など関係機関との連携によりまして、パトロールの強化を図るとともに、巡視、点検方法について住民に周知し、防災意識の醸成を図ってまいりたいと考えているところです。

○浅野敏明議長 5番、竹田陽一議員。

○5番 竹田陽一議員 質問が盛りだくさんになって、大変恐縮しております。

住んでよかったと、これからも住み続けたいというまちづくりに頑張っていきたいと私も思いますのでよろしく願いをし、以上で質問を終わります。

小関秀一議員の質問